［DVD-ROM 解説］

FM ヨコトリ

――展覧会内ラジオ放送局 82 日間の記録――

大　榎　　淳

これは，微弱電波を利用したミニ FM 放送局のドキュメントである。一般に商業放送の印象は，電波の到達距離だけでなく，放送現場へのアクセスも含め，一定の距離感を伴ったものになっている。これに対し，微弱電波による小さな放送局は，具体的に人々を接近させる効果を生み出す。実際，大きな声で呼びかければ聞こえてしまうような範囲で放送を始めると，たちまち数人がマイクの周りに集合することになる。

とはいえ，やはり電波という特徴は見逃すことができない。ラジオがあれば，自由なスタイルで音声を聞くことができる。例えば，そのラジオにヘッドフォンを繋げると，周囲にはまったく聞こえないヒソヒソ話でも，複数で享受することが可能となる。さらに，電波の到達範囲とリンクした身体は，オーラルなコミュニケーションとは異なる流動性を経験することになる。記録という形式では，そのスリリングな体験までは共有できないが，ラジオという場の多様性を示すことはできるだろう。なお，このドキュメントでは，FM ヨコトリ以外にも，いくつかの放送やストリーミングによる小さなメディアの試みを紹介している。全体を見渡すことで，今回の試みが，より明確になるはずだ。

「FM ヨコトリ」は，3 年ごとに開催される美術イベント「横浜トリエンナーレ 2005」のメイン会場である横浜市山下埠頭 3 号，4 号上屋を対象エリアとした，微弱電波による仮設のミニ FM 放送局である。美術展会場内のメディアであると同時に，この放送局自体が作品の一つとなっていた。放送の実質的な運営は，大榎と FM ヨコトリのために結成された学生と市民のグループ「上屋番」が担当した。

放送は，音響・送信装置を備えた移動式の構築物「ラジオ屋台」を中心に展開された。この屋台の設計と製作は，建築家グループ「みかんぐみ」が担当した。みかんぐみは，横浜トリエンナーレ全体の空間構成にも参加しており，ラジオ屋台は，会場内のサインや，元町中華街駅構内に設置されたインフォメーションセンターとも統一されたデザインに仕上がった。

屋台には，参加者が利用できるコンピュータやヴィデオモニタが設置され，映像資料の提示や，インターネット経由でのゲスト参加も可能であった。加えて，レクチャーや音楽演奏といったイベントのベースとなる機能も備えており，また，週刊で発行された番組表や関連

FM ヨコトリ

イベントのフライヤー配布，受信用 FM ラジオ，オリジナル T シャツ，それにドリンク類の販売活動なども行なった。屋台自体も，電波による放送とともに FM ヨコトリというメディアの特徴を形成している。

そもそも日本の電波法には，無線設備から 3 メートルの距離で 500 μ v/m の電界強度（電波の強さ）であれば，無線局の免許を受ける必要がないとした規定がある（FM 放送の周波数帯の場合）。具体的にはラジコン模型やワイヤレスマイクなどを前提にしたもので，この程度の電波であれば，誰もが自由に利用できる。この規定から，マイクロな出力のミニ FM 放送局が可能となる。

ただし，FM ヨコトリの放送エリアとなった横浜市山下埠頭の 3 号，4 号上屋は，1 つの倉庫で約 4140 m²，全体では約 12000 m²（延床面積）の広さがあり，全体をサービスエリアとするため，いったん発信された電波を受信して，わずかに周波数をずらして再送信するという，中継システムの設置が必要であった。

また，ハード面の工夫以外に，長いイベント会期全体に渡ってライブ活動を展開したことも FM ヨコトリの特徴である。横浜トリエンナーレ 2005 は，2005 年 9 月 28 日から 12 月 8 日までの 82 日間に渡って開催された。この間，FM ヨコトリは，週 6 日の放送日を設定して全期間に渡って活動した。また，展覧会の開催以前にも「ラジオワークショップ」を繰り返しながら，上屋番への参加者を募っていった。

このワークショップは，トリエンナーレのボランティアを育成する目的で催された「トリエンナーレ学校」の開始に合わせ，2005 年 4 月から展覧会オープン直前までの 9 月にかけて，毎週火曜日に，横浜市中区の旧関東財務局ビル（現在は，横浜市のアートセンター「ZAIM」）にて実施された。FM ヨコトリとしての実質的な活動期間は，82 日間の会期をはるかに超えている。

上屋番は，トリエンナーレ学校の運営補助から，そのスペースとなった旧関東財務局ビルの開設準備にもかかわってきた。同時に，FM ヨコトリとしての放送＝イベントのキュレーター（企画・運営者）として活動した。このため，横浜トリエンナーレ本体の活動へ密接にかかわりながらも，一方で，まったく独立した表現の時間と空間を出現させることとなった。もちろん，横浜トリエンナーレ 2005 の企画意図に，コミュニティーとの関わりの中から変化して行く表現＝ワーク・イン・プログレスの考えがあったわけだが，その鬼っ子的存在が FM ヨコトリだったといえるだろう。

※横浜トリエンナーレ 2005

会期：2005 年 9 月 28 日から 12 月 18 日
会場：横浜市山下埠頭 3 号・4 号上屋
山下公園，山下公園レストハウス，山下町公園，旧関東財務局，元町ショッピングストリート，横浜中華街，イセザキモール，ドックヤードガーデン，横浜港みなとみらいホール他
主催：国際交流基金，横浜市，NHK，朝日新聞社，横浜トリエンナーレ組織委員会
後援：外務省，文化庁，神奈川新聞社
総入場者数：189,568 名（本展会場：159,091 名）
総合ディレクター：川俣正
キュレーター：天野太郎（横浜美術館）
芹沢高志（P 3）
山野真悟（ミュージアム・シティ・プロジェクト）

※以下は，FM ヨコトリの記録以外に，DVD-ROM へ収録した主な内容である。これらは，「コミュニケーション科学」2003 No. 18 に収録したものを一部修正している。

・「Transportable TV Museum I, II（Zapping TV）」
1995 年 3 月　福井県立美術館，および，福井ケーブルテレビ
・「アートストライキ・フローティングギャラリー“すべての検閲に反対する集会”」
1995 年 11 月　川崎市市民ミュージアム周辺「ふるさとの森」
・「Radio Home Run in the Net」
1999 年 11 月，12 月　福井市美術館
・「The Projectional Intifada」
2002 年 4 月，5 月　東京都内各地・福井市街頭
・「Alternative Communication@OSU Electronic Village」
2002 年 10 月　名古屋市大須 ボイズバリスタコーヒー オープンテラス

※この活動には，東京経済大学の個人研究助成費からの助成があった。また，アップルコンピュータ，株式会社田口製作所，株式会社タグチの機材協力を受けた。

※DVD-ROM に収録したサウンドファイル（mp3）の再生には，Martin Laine の Audio Player 2.0 beta を使用した。http://wpaudioplayer.com/